

景況実感調査(2月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 2月中旬頃からタイト感がなくなった。各社、材料UPし足元の引合いが極端に減っている。メーカー値上げの価格転嫁が進まない中、市況価格への影響が気になるところ。
- ② 大雪もあり、実質稼働日は大幅減となった。物流も混乱し消費増税前の仮需も相殺された感がある。スクラップ価格の下落や中国・韓国ものの増加も足元の市況一服感に影響を与えている。ウクライナ問題や中国内の景気見通しも、消費増税後の落ち込みも、各々予測が難しく、国内需要は比較的底堅いと思われるが、販価の押し上げにはやや力強さが欠けてきた。職人不足やトラック不足もあり、以前の増税前のような駆け込み仮需は期待できないと思われる。
- ③ 引合いに一服感が出始めている。
- ④ トラックが間に合わず、配送に苦勞している。消費税が4月から上がり、他商品の在庫にも影響が出ている。(梱包用材木等)

中板

- ① メーカーのロール状況に以前ほどの逼迫感がなくなった上に、今後、消費税増税前の駆け込み需要の反動減が予想され、在庫の急増に注意しなければならない。
- ② 職人不足、トラック不足による建築物の遅れで、販売は大幅減。スクラップのじり安傾向も気になるところだが、弱気は禁物。しっかりと商売をしていきたい。

厚板

- ① ここにきて建築の明細の出が遅くなってきている。設計人員不足、溶接工不足等が原因となっており、物件は見えているがFABの供給能力に限りがあることから、多少停滞感が出てきている。産機、土木分野でのシャーの稼働率は高い。高炉の定修が5～6月に予定されており、しばらくタイト感は続くと思われる。
- ② 車不足、ユーザー工期の遅れが足元の問題点と認識している。

一般形鋼

- ① 鉄スクラップの下落により値上げ転嫁が遅れている。
- ② 売上高、収益状況は何とか前月並みを維持できたが、販売数量は大幅に落ち込み、昨年の8月並みとなった。例年荷動きが閑散となる第一四半期を控えて頭の痛い先行指標だ。建築需要を主力に仕事はあるので、夏までの現状市況維持が業界共通の課題となってきた。
- ③ 現場があっても職人不足で仕事ができず、好景気になるチャンスなのにジレンマを感じている。国としても、この人材不足に手を付けてほしい。

工H形鋼

- ① 出荷量が急激に落ち込んだが、各メーカーの状況からも価格を維持していく正念場となるように思われる。
- ② 引合いは減ってきている。市況の先高観や増税により先行発注が相当あったと思われる。その反動と、ここに来ての原料の下落や在庫増等で様子見に入った感がある。ただし、いずれ仕事は出て来るはずであるから、ぶれない対応が必要である。

異形棒鋼

- ① 現場は動いているため、店売りは好調。物件等はスクラップの下げから様子見。
- ② 2月中旬から荷動きは不振。物件が少なく新規見積りも低調。スクラップ価格の下落とともに、需要家は様子見となっており、市況の維持には厳しい環境になりつつある。今後はメーカーの販売姿勢如何である。

平鋼

- ① 1月後半から荷動きは低迷。2月も変わらず動きが悪い。関東の平鋼メーカー1社が事業撤退するが、市中の在庫に逼迫感は見られない。荷動きの悪さは価格転嫁にも影響が出ており、停滞感が漂う。

鋼管

- ① 杭関係は堅調。在庫タイト化で価格転嫁中。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は底堅い動きとなっているが、4月以降の反動減が懸念される。また、建築機械関連は中小型機種が北米向けなどで多少動いているものの、鉱山開発用の大型機種は引き続き低迷した状態となっており、来季以降も不透明である。店売りの荷動きについては、横這いの状況が続いている。市況については、メーカーの値上げ実施されるものの、市中在庫は適正ながらタイト感はなく、また来期以降の需要動向も不透明であることから、価格転嫁には多少時間がかかるものと思われる。
- ② 各電炉メーカーの値上げ機運が高まりつつある。市場ではメーカーほどタイト感はなく、盛り上がりやや欠けている。4～6月の動きが不透明で不安視されるが、強含みの環境変化への期待も出つつある。

その他

<曲げ加工>

- ① 昔からいわれているように、2月と8月は商いにとってはあまり良くない月とみられる。当社としてもあまり芳しくなかった。今か今かと期待はしているが、いまだに良くならないのが残念である。大手商社などからの見積りもいま一つ伸び方が鈍感である。今後は徐々に良くなっていくことを願うが、辛抱のしどころである。

<スクラップ>

- ① 依然として海外向け、国内の高炉・電炉メーカーも購買意欲が鈍く、スクラップの価格下落に歯止めが掛からない。2月は大三製鋼の撤退、2週に続く大雪の影響を受け、一部メーカーでは荷止めが続き、スクラップの行き場が失われている。スクラップ業界にとってリーマンショック以来の非常事態である。

<金属表面処理加工>

- ① 2月は当初より高操業を予想。予定通り紐付き、物件物も納入先の工程進捗が順調なことから、扱い数量、売上高とも大幅増となった。スポットも相変わらずまとまった物流が多く、前月比20%増。3月は年度末でもありメーカーからの大量出荷が予想されることから、今月同様に高操業となりそうである。